

～ 第6次留萌市総合計画意見交換会 ～

【開催概要】

- 平成28年8月1日(月) 19:05～20:33
- 商店街振興組合連合会
- 市役所3・4号会議室

【出席者】

商店街：土田(オプトメガネ)、室本(室本萬翠園)、関口(バード)、石井(山屋ベーカリー)
金森(かなもり印舗)、高田(一久庵)
委員：伊端座長、大石委員
市：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【資料】

第6次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】

- ① 座長挨拶
- ② 市民会議案説明
- ③ 意見交換

〔目標・検証〕

- 評価と分析結果で、なぜできなかったかの分析が必要。
- 目標を一つ達成することによって、みんなが達成感を感じる。それによって次のステップ、意欲につながるが、現状では何も見えてこない。
- 毎年500人の人口減少が20年間続いているということは、政策としては破綻しているということ。政策として根本的に間違っていたのではないか。市役所だけでなく、市議会や市民の原点が違うのではないか。
- 基本構想ではあるが、優先順位が必要で、経済が最優先。
- 総合計画の構成図(ピラミッド型)は良くない。同心円状の中心に核となるのが構想で、それを取り巻くのが基本計画、実施計画でなければいけない。
- 基本構想は具体的なものではないもので、基本計画、実施計画の方が、興味があり参加したい。

〔まちの中心・商店街〕

- コンパクトシティのスタートは、公共施設の配置。それに付随して商店街も連なってくる。市役所や公民館などの配置を決めないと地域も動かない。行程表なども見えてくると動き出す。
- 学校が統合されていく中で、そこ(跡)に何か核となるものをつくるというのは、市民・地域の責任ではなく市役所の責任で構想を立てるべき。分かる範囲でお手伝いはできる。
- 公共施設の建て替えの時期が目前に迫っている。議論を始め、利益誘導したい人はやればよい。議論もせずに決定するのではなく、具体的に市民が議論できる、理解できるように。
- 公共施設が集客施設となり、周りに民間施設ができ、PFIでやることも可能。議論できる場が必要。
- 商店街は、張り付いてきた結果が中心街となる。商店は中心街を誘導するものではない。商店街が人を集めないから中心街が廃るといっている人がいる。核となるものがあつての商店街。
- 公共交通に乗って行けないような公共施設ばかり。
- この先商店街ではなくなる。個店で生きていくしかない。整理(集約化等)する必要もない。
- 後継者がどうのこうのではなく、稼げて成り立つのであれば継承されるし、息子直系の考えはない。空き店舗対策も反対。補助の期間だけで、定着率が低い。

- 郊外の住宅地は、高齢化が進み、住めなくなる。まちの経営コストを考えると、ここから先は住めない、水道も道路も止める、移転料出してまち中に移住させた方が、効率的。

[施設・産業]

- 野球場のトイレ問題。留萌での開催を敬遠されている。マイナスイメージであり、払拭しなければいけない。
- 観光は、観光産業として金を落とさせるシステムをつくる必要がある。ホスピタリティやおもてなしは表向きの話であってメインではない。
- 黄金岬の店をきれいにして、来訪者の10%をまち中に流すシステムで雇用も生まれる。ゴールデンビーチも毎年浚渫して億のお金を使っているが、お金を掛けない黄金岬の方が、観光客が来ているという事実を冷静に見なければならない。民間がやって行政が付いてくればいだけ。
- 船場公園は、駅が無くなったとき有効活用できるのだろうか。木の無い公園なんてありえない。自由にも使えない。使い勝手が悪い。あんな見苦しい管理等があって、見晴らしも悪い。

[その他]

- 自主防災組織を作っているが、個人情報の壁があって進まない。市役所で誘導、支援してくれない限り、全世帯をカバーすることはできない。
- 郊外の外資店の水道料を高くするなど、市民が作ったインフラを市民と同じように使うのは駄目だ。高くすることで公平になる。
- JR留萌増毛間が廃止になったときに、無償譲渡かもしれないが、固定資産税収入と維持コストを考えると、市民に有効な財産になるのか議論しなければいけない。貰うべきではないと思う。